令和８年度　　第３学年　　授業改善推進プラン　　小平市立小平第二小学校

	課題（児童の実態、学習状況、指導の実態）	改善プラン（課題の改善プラン、具体的な手だて）
国語	・新出語彙や授業内で扱った言葉の定着度に個人差が見られ、理解や使いこなしに差が生じている。 ・自分の考えや事実を説明する際、根拠や具体的な例を挙げて論理的に文章を書くことに苦手意識をもつ児童が多い。	・国語の時間に学習した文型や言葉等を、日常生活や朝の会などのスピーチでも授業でも意図的に使い、言葉の幅を広げられるようにする。 ・説得力のある説明文を書くために、「事実・理由・具体例」の構成を示す文章の型（モデル文など）を活用し、順序立てて書く活動を週に一度行う。
社会	・地域や小平市への関心が高まっている。 ・資料を読み取る力を伸ばす必要がある。 ・生活体験により、学区内や小平市への知識に差がある。 ・小平市についての資料の蓄積があまりない。	・学習内容を身近な生活につなげながら、さらに意欲的に取り組めるように指導する。 ・地域の方の協力を得て、資料を増やしたり、見たり聞いたりする体験を増やす。 ・様々な種類の資料を読み取ったり、資料から考えたことを交流したりする活動を多く設定する。 ・ICT 機器を活用し、資料のどこに注目したのか分かるようにする。 ・小平市についての資料を多く収集・蓄積し、すぐに活用できるようにする。
算数	・５展開の習熟度別指導を行っている。 ・計算（九九）や単位換算など習熟に個人差があり、既習事項の定着に課題がある児童が数名いる。 ・自分の考えをノートに表現したり、分かりやすく説明したりできる児童が増えてきたが、苦手とする児童も多い。	・単元ごとのレディネステストを基に習熟度別に５展開で行い、個人差に対応しながら学習を進めていく。 ・計算プリントなどを適宜活用し、計算力を高める。 ・自分の考えを書いたり、友達の発表を聞いたり、説明したりする活動を取り入れた授業展開を日頃から努める。 ・条件不足の課題提示を適宜行い、意欲や思考力を高める。
理科	・観察から気付いたことを観察カードに文章で書くことが苦手な児童が多く見られる。 ・「チョウのかんさつ」の単元において、理科のことばである「成虫」と「こん虫」の違いを間違えて	・観察した時に初めて思ったことを児童全体で共有しながら板書していく。一人ずつ指名して聞きながら黒板に書く例分を示すことで書く内容を分かりやすく示す。 ・教科書のまとめの時間にこん虫とそうでない虫との同じところと違うところを確かめる時間を設ける。

	しまう児童が多く見られた。	・ICT を活用したり、クイズ形式で発問したりと、工夫した指導を実施する。
体育	・運動することが好きな児童は多く、意欲的に学習に取り組んでいる。また、友達と協力したり、教え合ったりとグループ学習も始まっている。 ・技能面で差が開いてきており、体育が苦手と感じる児童も一定数いる。 ・自分のめあてをもち、それを達成するために工夫して課題に取り組むことが、まだ難しい。	・体育の学習の中で「運動学習場面」を多く設け、児童の運動量を十分に確保する。 ・苦手な児童も楽しく取り組めるよう、規則などを工夫する。また、運動技能だけでなく、教え合いや作戦など思考面でも児童を認めていく。 ・授業の流れとめあてを明確にし、児童に意識させることで課題解決学習に取り組みやすい環境をつくる。
道徳	・登場人物の気持ちやこれからの生き方につながる自分の考えを発言したりすることができる児童が多い。ただし、ワークシート等に書くことになると抵抗を感じる児童もいる。 ・道徳の授業で考えたことを生活の中で実践できていないことがある。	・こどもたちが自分のこととして考えられる言葉掛けや、自己を振り返られる言葉掛けをしていく。 ・必要に応じて学習者用端末を活用し、考えの共有を図る。 ・常に道徳の授業と日常生活を結び付けて考えていくことを大切に指導していく。
外国語活動	・多くの児童が意欲的に活動に参加できている一方で、大声で発声すること自体が目的となってしまい、ALT の正しい発音やリズムを聴いて真似することに意識が向きにくい。 ・毎時間の「学習のゴール（めあて）」や「何のためにその表現を使っているのか」への意識が薄く、活動内容そのものが目的化してしまう児童が見られる。	・ALT のリアルな発音をじっくり聴く時間を意図的に確保し、それを真似して口に出す活動を通して、正しい発音や表現の定着を図る。 ・毎時間の導入で「今日できるようになりたいこと（めあて）」や「使うキーフレーズ」を視覚的に明確に提示し、やり取りの目的を意識して活動に取り組ませる。